

上山市振興計画推進会議の検証結果概要

1 会議概要

- (1) 開催日：令和7年7月11日（金）
- (2) 場所：401・402会議室、政策会議室、302会議室
- (3) 参集者：上山市振興計画推進会議委員9名、副市長・事業担当課長
- (4) 協議内容：第8次上山市振興計画前期基本計画（計画期間：令和6年度～令和9年度、61施策266事業）について検証を実施した。

また、第2期上山市まち・ひと・しごと創生総合戦略（計画期間：令和2年度～令和6年度）に位置付けられている事業、デジタル田園都市国家構想交付金を活用した事業及び物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用した事業についても検証を実施した。

2 検証結果の主な内容

■ 全体検証

- ・ 検証をとおして、課を越えた横の連携がみえてこない。海外旅行客の半数が旅館で夕食をとらないため、飲食店を利用してもらえ、食事なしでも旅館では宿泊してもらえ、というように以前から状況が大きく変わってきている。規模の小さい当市では課を越えて連携した施策を展開していただきたい。

■ 第1章 笑顔「みんなが笑顔で輝けるまち」

1-5-1 生涯学習環境の整備

- ・ 各地区公民館で幅広い取組が行われているが、幅広い年代の方が活用できるよう、階段へのスロープ設置、手すり設置、和式から洋式トイレへの改修など、各地区公民館の物理的な環境整備が必要である。

1-6-1 文化財愛護による地域づくり

- ・ 今後の取組について、文化財の保護には人も大事になってくるので、地域の方も含め、人の確保が重要である。クラウドファンディングなど金銭的なサポートなど持続可能な管理体制を検討する必要がある。
- ・ 文化財等の分野は、対象に対して興味関心がある方が熱心に関わる。それ以外の方にどのようにアプローチしていくかが重要であるため、人材の掘り起こしも必要であり、それが今後の活動につながっていくのではないかな。

1-7-1 障がい者の自立支援と社会参加の推進

- ・ 障がい者の定期雇用につながっていくような取組の実施と、就労支援の方を増やし、障がい者の方が働き続けることができる場を確保していただきたい。

1-9-1 市民と仕掛ける戦略的シティプロモーション

- ・ 市民の方向けに、シティプロモーション活動指針が広まるような取組を今後も展開してもらいたい。

■ 第2章 元気「ともに支え合い、元気に暮らせるまち」

2-1-2 地域医療体制の維持

- ・ 産婦人科や小児科含め医療体制は生活の基礎となるため、引き続き、充実化に向けた検討を進めていただきたい。

2-2-1 生涯にわたるスポーツ活動の推進

- ・ 市民プールについて、夏休み期間しか使用することができず、冬でも使用可能な施設があれば、介護予防など体力向上にもつながると思うので、整備を検討していただきたい。

2-3-1 地域支援事業の充実

- ・ コロナ禍が明けてから、介護予防に関して毎年市内で色々開催していただいている、大変ありがたい。介護予防イベントへの参加の際、施設にも協力依頼ということで施設～自宅までの車の送迎を行っているが、施設の車の台数に限りがあり、職員も事業をしながらのボランティアとなるので、市職員からも協力を得られないか。

2-5-1 地域で支え合う社会の実現

- ・ 民生委員・児童委員を対象とした研修会の参加者割合とありが、なり手がいないため、なり手をどのように確保すべきか市としても検討していただきたい。
- ・ 福祉関係大会等の参加者、コロナ禍が明けてから増えたとあるが、参加者のほとんどは民生委員や地区会長であり、一般市民の参加者は少ないのが現状である。実際の参加者からは、講演内容がおもしろくないという意見があり、途中で退席した方もいる。講演内容の充実を図ろうとしても、予算が無いと言われてしまうため、その点も考慮していただきたい。

■ 第3章 挑戦「みんなが挑戦できるまち」

3-1-1 中心市街地の商業機能強化と個店の魅力向上

- ・ 空き家が活用されるのは良いこと。商工会としてはイベントも活性化に必要と考えるが、イベントが個店の魅力向上につながるのかは疑問。
- ・ 海外からのお客様が増えており、宿泊者の半分以上が旅館で食事をとっていない。外国人の食事の受け皿づくりなど、来訪者の志向を踏まえた取組を進める必要があるのではないか。

3-1-2 創業支援の強化

- ・ 事業承継などで悩んでいる方が、関係機関に相談できれば良いが、相談できずに廃

業する方もいるのでは。商工会も含めて関係機関の連携が大事、協定は結んでいるが、具体的な連携につなげていくことが必要。

- ・ 金融機関が中心になるのであれば、市側のスキームが必要なのか。

3-2-1 産業拠点の形成と企業誘致

- ・ 産業団地の第3期分譲をぜひ実施してほしい。
- ・ 産業団地の分譲が市内在住者の雇用につながるようにしてほしい。
- ・ 企業誘致をがんばってほしい。

3-2-2 工業の成長支援

- ・ 粗付加価値率がKPI（総合戦略）として適切なのか。

3-3-1 地域全体で仕掛ける戦略的な観光振興

- ・ 総合戦略のKPI未達成は、新型コロナの影響を受けており考慮すべき。
- ・ 山形新幹線などの交通、気候変動など事業者の努力だけではどうにもできない要素があるため、目標の達成状況の検証では考慮すべき。

3-4-1 収益性の高い農業の実現

- ・ ワインに関わる人が増えているのは実感している。ワイン用ぶどう栽培では新規就農者がいるなど、新しい人が入ってくるのはうれしい。全体的には、後継者問題がある。
- ・ 市長によるトップセールスに期待する。
- ・ 上山市は果樹に関する支援策が手厚く感謝している。スイカなどで頑張っている人もおり、品目を絞らず多種多様にチャレンジできる環境整備も必要ではないか。

3-4-2 有害鳥獣対策の推進

- ・ 上山市はある程度手厚い対応している。
- ・ 地域全体の電気柵で対応してきたが、イノシシの対応のため個人対応も必要になってきている。
- ・ 有害鳥獣は農業だけの問題ではないのではないか。人への危害などもあり、地域全体の問題として捉えるべきでは。
- ・ 中間アウトカム指標等を捕獲頭数等にすべきではないか。

3-5-1 働きやすい労働環境の整備と人材確保・定着

- ・ 育児休業は、補助金等がなくても取得できるような環境づくりを進めるよう周知に努めてほしい。
- ・ 産業人材市内誘導奨励金の対象業種を縛る必要があるのか。制度の周知もしてほしい。
- ・ 外国人人材に関して市内に知見を持っている方がいるので活用を検討してはどうか。

■ 第4章 持続「安心して暮らせる持続可能なまち」

4-1-1 道路環境の充実

- ・ 中間アウトカム指標の表記として補助事業名まで記載された方が分かりやすいのでは。
- ・ 中間アウトカム指標の道路工事整備率は、予算との関連性が高く指標として適切か。

4-2-1 河川環境の保全

- ・ 中間アウトカム指標の河川一斉清掃の参加者数の増加が将来指標のまちづくり活動に積極的に参加したい率の増加にもつながるのではないか。

4-3-1 安全で良質な水の安定供給

- ・ 基幹管路の耐震適合率を全国レベルにあげていく必要があるのではないか。

4-3-2 浸水被害の防止

- ・ (仮称) 駅東パークタウンも重要であるが、現在、危険な箇所の対応も必要ではないか。
- ・ 先日の豪雨のように気候変動の影響で豪雨の発生頻度が高まっている。上下水道管の破断も一例であるが、現在、全国的に懸念されているような事案については、早急な対応を検討すべきではないか。

4-3-3 下水道の適正管理と普及促進

- ・ 上下水道料金は、生活コストに直結する費用であるので、あり方はしっかり考えていくべき。

4-4-1 魅力的な都市の基盤整備

- ・ 特徴ある公園があると良い。

4-4-2 歴史を活かした特色ある景観づくりの推進

- ・ 景観条例があって取り組んでいるわけではなく、中途半端ではないか。どうしたいのかを示していくことが必要ではないか。

4-4-3 安全な住宅環境づくり

- ・ 4-4-4 快適な環境による移住・定住の促進の中に持家取得に関する支援制度があるが、この制度が空き家の増加につながっている部分もあるのではないか。

4-5-1 民間事業者が運営する公共交通の維持・確保

- ・ 棚木線が蔵王温泉まで延伸されれば、観光路線としての活用にもなるのではないか。

4-5-2 市営公共交通の運行

- ・ 「タクシー難民」の言葉が死語になるように頑張してほしい。

4-6-1 自主防災組織活性化と防災・減災体制の強化

- ・ 消防団が解散した地区もある。ポンプ庫の所有など分からなくなっている部分もあり、整理していく必要がある。

4-7-1 消防力の充実強化

- ・ 冬山での遭難が増加している中で消防の装備等の充実を図るべき。

4-8-1 防犯対策と安全な消費生活の推進

- ・ 外国人労働者向けの日本の法律など生活に必要な勉強会など必要ではないか。

■ 第5章 快適「快適に住み続けられるまち」

5-1-1 健全な森林整備の推進

- ・ 森林は管理が難しいと認識している。個人の管理が前提となると思うが、適正管理などの周知に努めてほしい。

5-1-2 多面的機能を有する農地の保全管理

- ・ 保全活動については、道路に面するなどの条件の良い場所が優先される。現在の制度では対応しきれない部分もある。
- ・ 団体の広域化などの視点も必要ではないか。
- ・ 広域化が進むのであれば、中間アウトカム指標が団体数で良いのか。

5-2-1 公害等の環境問題への対応

- ・ 有機フッ素化合物（PFAS）なども検査すべきではないか。

5-4-1 3R活動の推進

- ・ 子どもの減少によって子ども会が中心となった資源回収活動ができなくなっている。持続可能な活動のあり方を考えていくべきではないか。
- ・ 資源化率が高いことをもっとPRして良いのでは。

■ 第6章 計画の推進

6-1-1 まちづくり活動への参画の推進

- ・ 高齢者でも元気な方がたくさんいる。90代の方が多くなってきており、元気な高齢者の方を巻き込んでのまちづくり活動を展開していけば良いと思う。
- ・ 市の総合計画のダイジェスト版等を活用することで市の施策の全体像がみえやすくなり、まちづくり活動への参加につながっていくため、今後も、市の施策の全体像を、市民の方や学生に伝える機会を作っていただきたい。

6-2-1 市民活動の後押しとなる広報広聴活動

- ・ 内容が分かり易いのも勿論だが、必要な方に情報が届いているかどうかという観点で、広報の方法は日々改善・模索できると良い。

6-3-3 広域行政の推進

- ・ 広域で効率化できるものは連携を、各自治体の個性として打ち出せるものはしっかり打ち出し、住み分けが出来れば良いと考える。

6-5-1 デジタル技術による変革の創出

- ・ 実績としては、自治体の中でも上山市は進んでいると思う。一方で、デジタル技術を広く市民の方が恩恵にあずかる中で、平等にサービスを受けられるような取組・支援を進めていければよい。
- ・ 高齢者へのデジタル化は難しいと考える。一番は、窓口に行ったときに親切に教えていただけるのが一番である。付き添いの家族も高齢であることもあるため、書類が整わないまま、施設に戻ってくることもある。

3 意見への対応

頂いた意見については、新年度の予算編成を行う際の参考意見として取り扱うものとし、意見に対する対応については、その結果を踏まえて1月頃に文書にて回答する。

以 上